

カタール危機終結後のトルコと 湾岸・アラブ諸国の協力関係



テンプレ大学ジャパンキャンパス 政治学科 教授 柿崎 正樹

1. はじめに

2010年末以降に中東・北アフリカで勃発した「アラブの春」、そして2017年に起きた「カタール危機」などをきっかけに、トルコは一部のアラブ諸国と対立を続けてきた。「アラブの春」ではトルコは現状打破を志向するムスリム同胞団などイスラム主義勢力への支援を通じて中東域内での影響力拡大を図り、エジプトやサウジアラビアなど政治変動の波及を恐れる国々と衝突した。「カタール危機」では、トルコは湾岸の盟友であるカタールを支持し、カタールと断交したサウジアラビア、アラブ首長国連邦（UAE）、バハレーン、エジプト4カ国（通称「カルテット」）と対峙することとなったのである。さらに2010年代後半はトルコとサウジアラビア、およびUAEが中東域内およびその周辺地域で覇権を争った。

しかし2021年1月になると「カルテット」とカタールの間で和解が成立し、トルコが「カルテット」4カ国に対する態度を軟化させる条件が整った。また、トルコ経済の長引く低迷や外交的孤立、そしてエルドアン政権の強権化を問題視するバイデン政権の成立などを要因に、トルコは周辺諸国との関係改善に踏み出した。

ただし、トルコと「カルテット」各国の関係は一様ではなく、関係改善のペースも異なっていた。そのため、本稿ではトルコと「カルテット」各国の間で進められてきた関係正常化のプロセスをそれぞれ整理する（表1）。次に、カタール危機終結後のトルコと「カルテット」および湾岸協力評議会（GCC）との経済関係を検討する。最後にカタール危機で米国とともに仲介役を担ったクウェートとトルコの関係も今年に入り動き始めており、両国の関係についても概観する。

2. 「カルテット」4カ国との関係正常化

(1) 対UAE関係

カタールと断交した「カルテット」の中でトルコと最も激しく対立した国はUAEだった。両国の関係はカタール危機以前からトルコとムスリム同胞団の関係をめぐり冷え込んでいた。同胞団は政治的イスラム運動を通じて社会変革を唱える組織であり、「アラブの春」でその潜在的動員力を示した。そのため、UAEは2014年、エジプトやサウジアラビアと同

表1 カタル危機以降のトルコと「カルテット」の外交関係推移

2017年6月	サウジアラビアなど4カ国がカタルとの国交断交を発表
2018年10月	トルコ・イスタンブールのサウジ総領事館でサウジ人記者殺害事件発生
2020年3月	トルコ検察がサウジ人記者殺害事件でサウジ皇太子の側近らを起訴
2021年1月	GCC 首脳会議で「カルテット」とカタルが関係正常化で合意
2021年11月	UAE のムハンマド皇太子がトルコ訪問
2022年2月	エルドアン大統領が UAE を訪問
2022年4月	サウジ人記者殺害事件の裁判をトルコが停止，サウジアラビアに移管
2022年4月	エルドアン大統領がサウジアラビアを訪問
2022年5月	サルマン・サウジアラビア皇太子がトルコを訪問
2023年5月	エルドアン大統領がサウジアラビア，カタル，UAE を歴訪
2023年7月	トルコとエジプト，大使をお互いに任命し国交正常化することで合意
2024年1月	トルコのクルトゥルムシュ国会議長がバハレーンを訪問
2024年2月	エルドアン大統領がエジプトを訪問
2024年3月	トルコと GCC，自由貿易協定（FTA）協議開始で合意

様にムスリム同胞団をテロ組織に指定した。一方、トルコはカタルとともに同組織の幹部らを国内でかくまったのである。また、2016年7月にエルドアン政権を狙ったクーデター未遂事件が起きると、トルコでは事件を引き起こしたとされる組織（ギュレン運動）に UAE が金銭的な支援をしていたとの見方が強まり、両国関係はさらに悪化した¹。混乱が続くリビアやソマリア、スーダンといった周辺諸国でも両国は覇権主義的な外交を展開し、ことあるごとに衝突した。

しかしいったんカタル危機が収束すると、「カルテット」の中で UAE との関係正常化はいち早く進んだ。2021年の夏には UAE の安全保障担当高官がトルコでエルドアン大統領と二国間関係やトルコ向け投資などで協議した。11月になるとアブダビのムハンマド皇太子（現大統領）がトルコの首都アンカラでエルドアン大統領と会談した。会談に合わせて両国は貿易や金融などの分野に関わる10件の覚書を締結した。また、アブダビの政府系ファンド（ADQ）は100億ドルをトルコに投資する方針を打ち出した²。

両国の関係改善はその後も順調に進んだ。2022年2月にはエルドアン大統領がアブダビ

1 たとえば, Yunus Paksoy, “UAE Allegedly Funneled \$3B to Topple Erdoğan, Turkish Government,” *Daily Sabah*, June 13, 2017.

2 Firat Kozok, “UAE Sets Up \$10 Billion Fund to Support Turkey as Ties Warm,” *Bloomberg*, November 24, 2021.

を訪問し、両政府は13件の協定に署名した。この際に包括的経済連携協定（CEPA）の交渉開始も決まったが、交渉は翌年3月に早くもまとまり、5月末までに両国が批准を済ませている。両国は今後5年間で貿易額を400億ドルにまで引き上げることで合意している³。

(2) 対サウジアラビア関係

トルコとサウジアラビアの関係は、UAEと同様にムスリム同胞団をめぐる問題により悪化したが、2018年にイスタンブールのサウジアラビア総領事館で発生したサウジ人記者殺害事件によってさらに悪化した。トルコはこの事件をサウジアラビアに対するカードとして利用し圧力をかけた。2020年3月、トルコ司法当局は皇太子の側近を含む20人を殺人に関与した疑いで起訴した。一方サウジ側では反トルコ感情が強まり、トルコ製品ボイコットやトルコへの旅行をひかえる呼びかけが広がった。また、サウジ・メディアも反トルコキャンペーンを展開し、政府系メディアのコラムニストはエルドアン大統領を「パラノイド」呼ばわりした⁴。

しかし2021年になると両政府は関係修復に向けて協議を開始し、2022年4月、トルコの裁判所はサウジ人記者殺害事件の審理を停止しサウジアラビア司法当局に移管することを発表した。これによりサルマン皇太子の責任はうやむやとなった。トルコの決定は人権団体などからの批判を招いたが、これでトルコ・サウジ関係正常化の障害が取り除かれた。裁判の停止発表直後、エルドアン大統領は早速サウジアラビアに飛びサルマン皇太子と会談した。記者殺害をめぐるサルマン皇太子の関与をほのめかしていたエルドアン大統領は、カメラの前で皇太子と抱擁を交わし和解を演出した。会談で両政府はエネルギー、食糧安全保障、農業技術、防衛産業、金融、医療分野に関わる覚書を締結した。およそ5年ぶりとなったエルドアン大統領のサウジ訪問の2カ月後、今度はサルマン皇太子がトルコを訪問する。エルドアン大統領は大統領府で皇太子を歓待、両首脳は報道陣を前にこやかに握手を交わし雪解けをアピールしたのである。

1年後に国政選挙が迫る中、経済低迷で強い逆風にさらされていたエルドアン大統領が

筆者紹介

所属：テンプレ大学ジャパンキャンパス 政治学科教授

略歴：1999年神田外語大学外国語学部を卒業後、2002年にトルコの中東工科大学政治行政学部にて修士号取得。2015年にユタ大学政治学博士取得。2013年よりテンプレ大学ジャパンキャンパスで教える。また、2009年より（一財）日本エネルギー経済研究所中東研究センター外部研究員。主要業績にM. シュクリュ・ハーニオール著、新井政美監訳・柿崎正樹訳『文明史から見たトルコ革命 アタテュルクの知的形成』（みすず書房、2020年）、間 寧編『シリーズ・中東政治研究の最前線① トルコ』（ミネルヴァ書房、2019年）、小笠原弘幸編『トルコ共和国 国民の創成とその変容—アタテュルクとエルドアンのはざま—』（九州大学出版会、2019年）など。

3 Rachna Uppal, “Turkey, United Arab Emirates Sign Trade Agreement,” *Reuters*, March 4, 2023.

4 Hamood Abu Talib, “Boycotts of Turkish Products and Political Suicide of Erdogan,” *Saudi Gazette*, October 15, 2020.

サウジからの経済支援・投資にける期待は高かった。他方、サウジアラビアにとってはサルマン皇太子の一大都市開発事業である「NEOM プロジェクト」に対するトルコからの投資やトルコ建設企業の協力、また、新型コロナウイルスの感染拡大で中断されていたトルコからの巡礼再開などが重要な関心事だった。両首脳は貿易投資の促進や防衛装備品の共同生産や技術移転などでの協力も確認した。

サウジ人記者殺害事件裁判の中止でサルマン皇太子と和解しサウジから経済支援を引き出すというエルドアン大統領の戦略は翌年に結実する。2023年4月、サウジ政府はサウジ開発基金（SDF）を通じて50億ドルをトルコ中央銀行に預託すると発表した⁵。トルコ金融当局は通貨リラ防衛策として為替介入を繰り返しており、サウジからの支援は減り続けるトルコの外貨準備を支える一助となった。

(3) 対エジプト関係

トルコはエジプトとも長年対立してきた。「アラブの春」で当時のムバラク政権が倒されると、トルコはその後成立したムスリム同胞団出身のモルシ政権を支持した。しかし2013年7月にモルシ政権が軍の介入で崩壊すると、トルコは「軍事クーデターだ」と強く反発し、両国は断交した。新たに成立したシシ政権は、トルコ国内でのムスリム同胞団の活動を容認するトルコを敵視した。両国はさらにリビア内戦や東地中海のガス開発でも衝突した。

しかしトルコ政府は2021年以降、トルコ国内のムスリム同胞団の活動を制限するなど、エジプトに歩み寄りを見せ始める。2022年11月のFIFA ワールドカップ・カタル大会ではエルドアン大統領とシシ大統領が初めて会談し握手した。2023年7月、両国は大使を10年ぶりに任命し関係正常化が進展した。こうして2024年2月、エルドアン大統領が11年ぶりにエジプトを訪問し、シシ大統領と会談した。両首脳は二国間関係を正常化させることを確認し、貿易額の引き上げでも一致した。また、ガザ情勢についても協議し、エルドアン大統領はガザの復興支援でエジプトとの協力を意欲を示した。ガザ支援を急ぎたいトルコは支援物資をエジプト経由で提供しており、エジプトとの連携が不可欠である⁶。

トルコとエジプトの間には、トルコ国内のムスリム同胞団をめぐる問題や、リビアにおける利害対立などの懸案が残されている。しかし両政府はこれらを「棚上げ」し、経済や安全保障、中東の安定化など共通の利益に向けて協力していく方針で一致しており、関係修復プロセスはほぼ完了していると考えていいだろう。残るはシシ大統領のトルコ訪問で

5 Jon Gambrell, “Saudi Arabia Says It Deposited \$5B in Turkish Central Bank,” *AP*, March 6, 2023.

6 Muhammed Emin Canik, “Türkiye to Keep Cooperating with Egypt on Humanitarian Aid to Gaza, Says Envoy,” *Anadolu Agency*, May 21, 2024.

あるが、これについては政府間で調整が続けられている。両国はハイレベル戦略協力評議会の開催に合わせて首脳会談をセッティングする方向で検討しており、実現すれば政治、経済、貿易など幅広い分野での協議が実施されるだろう。

(4) 対バハレーン関係

カタール危機をめぐりトルコと対峙した「カルテット」の中で、バハレーンの立ち位置は独特だった。そもそもカタール危機発生までトルコとバハレーンの関係は良好で、2016年7月にトルコでエルドアン政権を狙ったクーデター未遂事件が起こると、バハレーンのハリーフア国王はすぐさまエルドアン大統領に電話し支援を表明した。さらに翌月にはアラブ諸国の首脳として初めてクーデター後のトルコを訪問した。その返礼としてエルドアン大統領は翌年2月に湾岸諸国を歴訪した際、最初の訪問地としてバハレーンを選んでいたのである。

カタール危機が起こるとバハレーンは隣国サウジアラビアに同調しカタールと対峙し、トルコとの関係も格下げした。しかしバハレーンの場合は、自国の安全保障をサウジアラビアに依存せざるをえない中で結果としてトルコとの対立に巻き込まれたといえる。カタール危機直後、ハリーフア国王とエルドアン大統領は電話会談を行い、湾岸情勢について協議するとともに懸念を共有したほか、数日後にはバハレーンの外相がトルコを訪問しており、両国政府は事態が急速に進む中でもなんとか関係悪化を食い止めようと外交努力を続けた跡がうかがえる。

そのため、カタール危機が収束するとトルコとバハレーンの関係は速やかに改善に向かった。2021年11月にはバハレーン外相がトルコを訪問し、翌年1月にはトルコ外相がバハレーンを訪問、外交関係を正常化させることを確認した。バハレーンの首都マナマでトルコ外相は「湾岸地域の安定と安全は共通の目標だ」との認識を示した⁷。

2022年11月にはFIFAワールドカップが開催されるカタールをエルドアン大統領は訪問することになっており、これに合わせてバハレーンを訪問する可能性も浮上したがこれは実現しなかった。しかし2024年1月、トルコのクルトゥルムシュ国会議長がバハレーンとUAEを歴訪し、バハレーンではハリーフア国王と両国関係について協議した。バハレーンもほかの湾岸諸国と同様、トルコとの防衛協力やトルコ製ドローンの調達に関心を持っている。エルドアン大統領のバハレーン訪問が実現されれば両国関係は一層深化するだろう。

7 “Turkey, Bahrain Share United, Stable Gulf Region Vision: FM Çavuşoğlu,” *Daily Sabah*, January 30, 2022.

3. エルドアン大統領の湾岸歴訪

2023年5月の大統領選挙で再選を果たしたエルドアン大統領は、同年7月17～19日、サウジアラビア、カタル、UAEを歴訪した。大統領には200人規模の経済ミッションが同行し、各国でビジネスフォーラムを開催し、経済関係強化に力を入れた。

サウジアラビアでは、エルドアン大統領がサルマン皇太子にトルコ製電気自動車（EV）をプレゼントし、皇太子が大統領とともに試乗、友好関係をアピールした。会談では、投資、防衛産業、エネルギー、通信の分野で協力協定が結ばれた。トルコの防衛産業企業バイカルは同社が製造する軍事ドローン「アクンジュ」の販売でサウジアラビアの受注を獲得した。受注額は10億ドルで、サウジアラビアの空海軍に配備される。また、両国は石油精製品の生産・販売、石油化学製品の分野での協力に関する覚書も締結した。今回の首脳会談は、2022年の首脳会談で合意された経済協力をより具体化させることが目的だったといえる。

カタルでは、エルドアン大統領は同国のタミーム首長と協力関係を再確認した。エルドアン大統領の訪問に先立ってトルコとカタルは共同で半導体生産に投資することで合意している。トルコのカジュアル産業技術相の説明によれば、カタルは当初国内で65ナノメートル半導体の生産を計画していたが、生産拠点をトルコに移すことを決めた。カタルの投資額は6,000万ドルに上る⁸。

最終訪問地のUAEでは、エネルギーや防衛産業、科学技術などなど13の幅広い分野で総額507億ドルの覚書が調印された。また、両政府は「ハイレベル戦略評議会」の設置で合意し、経済だけではなく政治面の関係強化を図ることで一致した。これによりトルコとUAEの関係は「戦略的パートナーシップ」に格上げされることとなった。さらにUAEは、2023年2月にトルコ南部で発生した大地震からの復興支援策としてトルコの国債85億ドルを購入するとともに、トルコ輸出入銀行に30億ドル規模のクレジットラインを設定すると表明した⁹。

4. GCC との自由貿易協定 (FTA) 交渉

トルコは関係正常化を通じて湾岸各国と二国間ベースで経済関係強化を図るだけでなく、GCC との自由貿易協定 (FTA) 締結も目指している。トルコとGCC は2005年にFTAに向けた協議開始で合意したが、トルコとGCC加盟国の関係悪化により協議は止まったままであった。

8 Hazar Kilani, "Turkey-Qatar Pledge Joint Investment for \$60 Million Chip Production Project," *Doha News*, July 16, 2023.

9 Yousef Saba, "Abu Dhabi's ADQ Signs \$11.5 billion in deals with Turkey for Earthquake Relief, Exports," *Reuters*, July 20, 2023.

しかし、カタール危機が終わったことを受けてFTA協議も再び動き始めた。2024年3月、トルコとGCCはFTA締結に向けた交渉を正式に開始することで合意した。経済の多角化を急ぎたいGCCは非石油部門に強みを持つトルコの協力に期待する。一方トルコはGCCからの投資拡大とトルコ企業の湾岸進出を狙う。トルコの貿易相によれば、トルコとGCCとの間で自由貿易地域が創設された場合、2兆4,000億ドル規模となる見込みである¹⁰。

ただし、その実現には欧州連合（EU）という障害が立ちはだかる。トルコはEUと関税同盟を結んでいるが、その規定により、EUとFTAが未締結の第三国とトルコは個別のFTAを結べない¹¹。したがって、トルコとGCCのFTA実現には、EUとGCCとの間でのFTA成立が不可欠となる。

5. 外交関係正常化とトルコ・カルテット貿易

カタール危機およびその終結はトルコの対GCC・エジプト貿易関係にどのような影響を及ぼしたのだろうか。

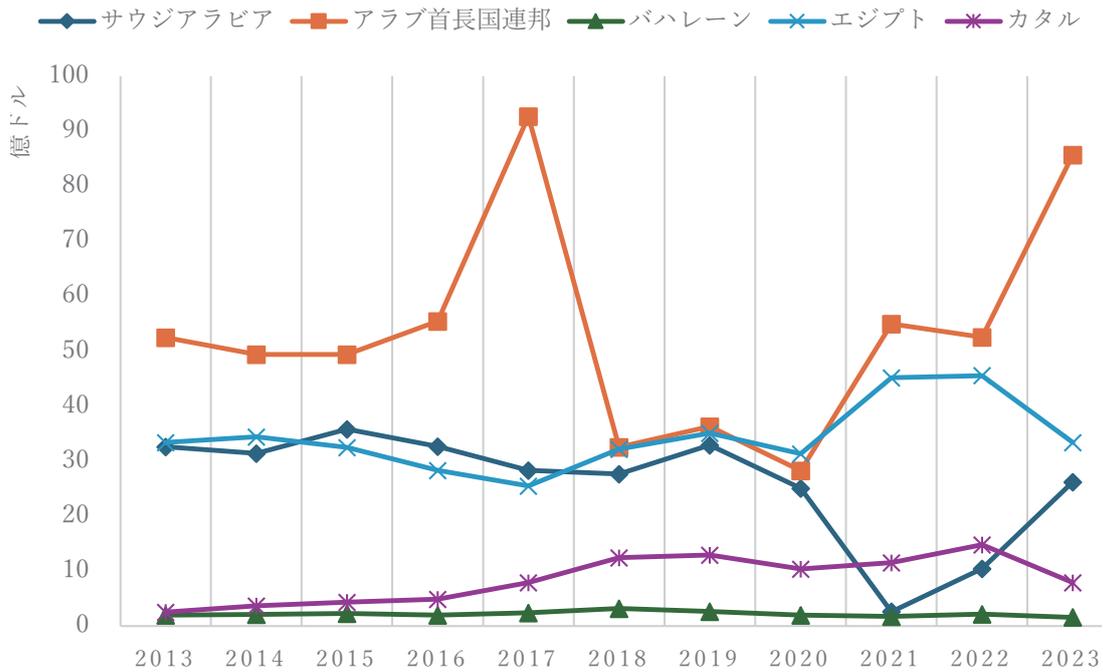
「カルテット」4カ国およびカタールの中でトルコ最大の貿易相手国であるUAEの場合、カタール危機が発生すると2018年のトルコのUAE向け輸出および同国からの輸入は減少した（図1および図2）。特にUAEへの輸出は93億ドルから33億ドルに急減した。しかし2022年に関係が正常化されるとトルコ・UAE貿易は大きく反発し、トルコからの輸出は80億ドル、トルコの輸入は100億ドルを突破した。また、サウジアラビアについては、サウジ人記者殺害事件をめぐりサウジ国内でトルコ製品ボイコットが発生したことにより、2020年に25億ドルだったサウジ向け輸出は21年になるとわずか2億6,500万ドルにまで落ち込んだ。しかし関係正常化が決まった2022年以降は上昇に転じ、2023年のサウジ向け輸出は26億ドルを超えた。バハレーンとの貿易はそもそもUAEおよびサウジアラビアに比べて規模が小さいこともあり大きな変化はない。

トルコとエジプトの間では2007年にFTAが発効しており、カタール危機でも貿易額の大幅な落ち込みは生じなかった。トルコとエジプトの貿易額は70億ドルほどであるが、両国政府は150億ドルに拡大させることで合意している。

10 “Türkiye, Gulf States to Launch Talks for Free Trade Agreement,” *Daily Sabah*, March 21, 2024.

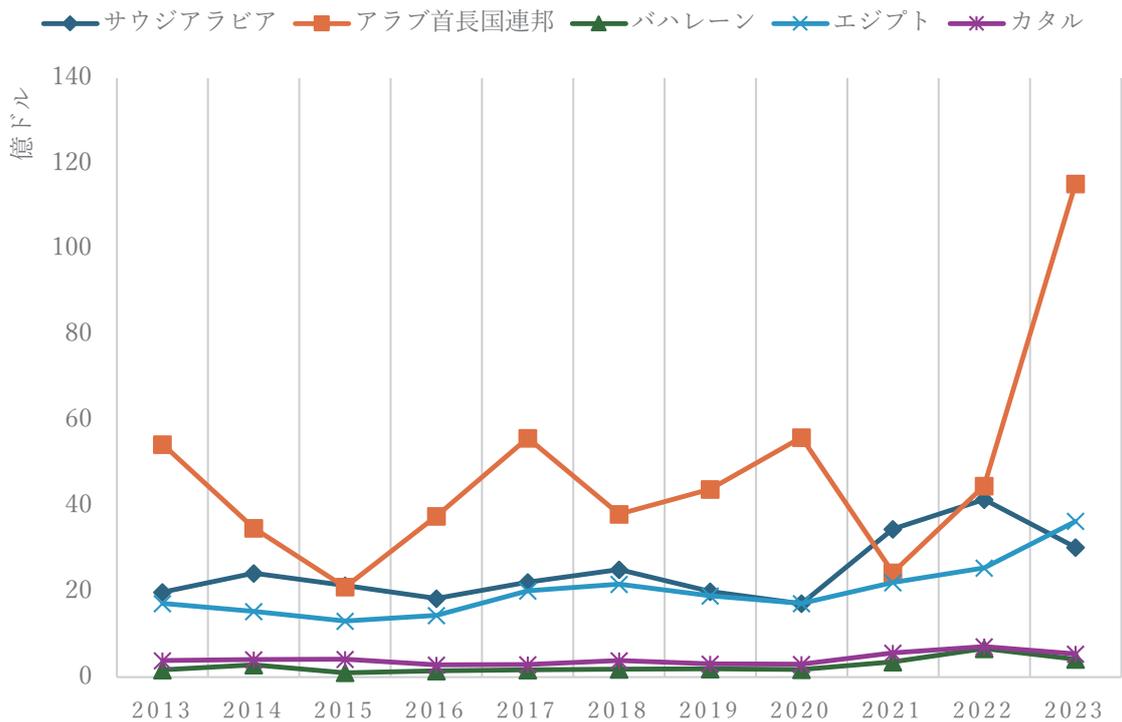
11 Sinem Cengiz, “The Prospects and Challenges As Türkiye and GCC Negotiate a Free Trade Deal,” *Arab News*, March 29, 2024.

図1 トルコの輸出動向



(出所) トルコ統計局 (TUIK) より筆者作成

図2 トルコの輸入動向



(出所) トルコ統計局 (TUIK) より筆者作成

6. クウェートとの関係も進展

トルコとクウェートとの関係もカタル危機以降進展している。クウェートはカタル危機で緊張緩和に向けた仲介役を引き受けながら、強硬な外交を続ける隣国サウジアラビアの潜在的脅威を念頭にトルコと防衛協力に関する協定を締結した。協定内容は公表されてい

ないが、クウェート国内にトルコ軍基地を設置する構想も協定に含まれているとの報道も流れた¹²。2023年になるとクウェート国防省はトルコのバイカル社と軍事ドローンの売買契約を結んだ。発注機数は不明であるが、契約額は3億6,700万ドルと推定されている。

2024年5月7日、クウェートのミシュアル首長がトルコを訪問した。2023年12月に崩御したナウワーフ前首長を含め、クウェート首長がトルコを訪問するのは7年ぶりのことである。ミシュアル新首長が非アラブ諸国を訪問するのは今回のトルコが初めてで、同国がトルコを重視していることの証といえる。首脳会談で両国は投資促進、経済特区、インフラ整備などに関する覚書を締結したほか、防衛協力やエネルギーや観光など幅広い分野に関わる協力についても確認した。トルコとしては、ミシュアル首長のトルコ訪問を契機に、クウェートからの投資拡大と観光客呼び込みに期待する。一方、石油依存型経済の多様化を進めるクウェートは、建設業を中心にトルコ企業の進出を求めている。

ところで、エルドアン大統領は今年4月、13年ぶりにイラクを訪問し、両国政府は新しい国際物流ルートの構築で予備合意を締結した。「開発道路」と呼ばれるこの事業は、ペルシャ湾を臨むイラクのアルファウ港からイラク国内の10州を通過し、トルコの主要港を接続する。予備合意にはUAEとカタルも加わり資金面で協力する。実現すれば域内経済の統合が進むとともに、欧州とアジアを結ぶ新たな輸送ルートとなるため、トルコとイラクの存在感が増すこととなる。

開発道路プロジェクトの開始はトルコ、カタル、UAEの関係正常化の副産物といえる。ところが、ペルシャ湾最深部でイラクと国境を接するクウェートはプロジェクトに参画していない。イラクとの間に横たわる国境画定問題やクウェート国内のインフラ整備の遅れなどが理由といわれているが、予備合意の発表後、クウェート議会では開発道路プロジェクトに乗り遅れた同国政府に対する批判が強まった¹³。開発道路開通でクウェートの地政学的重要性が低下する恐れがあり、イラクとクウェートの間で新たな緊張の火種にもなりうる。

先述した5月のトルコ・クウェート首脳会談では開発道路も議題となった¹⁴。協議内容の詳細は不明であるが、開発道路の建設にはペルシャ湾側出口に位置するクウェートの理解が不可欠であり、トルコがイラクとクウェートの間を取り持つ可能性が指摘されている¹⁵。開発道路とクウェートの港湾施設の接続を提案するなど、今後トルコが重要な役割を果たすことが考えられるだろう。

12 “Arap Basından ‘Türk Üssü’ İddiası,” *Hürriyet*, October 22, 2018.

13 “MPs Displeased as Kuwait Projects Stall amid Regional Agreement,” *The Times Kuwait*, April 24, 2024.

14 Esra Tekin, “Turkish President, Kuwaiti Emir Discuss Israel’s Attacks on Gaza, Bilateral Relations,” *Anadolu Agency*, May 7, 2024.

15 Sinem Cengiz, “From Concerns to Collaboration: Turkey, Iraq, Kuwait and the Development Road Initiative,” *Gulf International Forum*, May 10, 2024.

7. おわりに：ガザ情勢をめぐるトルコはアラブ諸国と連携

トルコの対「カルテット」外交の変化は、2023年10月からパレスチナ自治区ガザで続くイスラエル軍とイスラム組織ハマスとの衝突でも確認できる。

エルドアン大統領はこれまで、パレスチナ問題をめぐってはイスラエルとの外交関係樹立を決めた UAE などのアラブ諸国を非難し、トルコこそがパレスチナの擁護者であると豪語してきた。トルコ政府は政府機関やイスラム系団体を通じて東エルサレムで不動産を購入するなど現地での影響力拡大を図っていたともいわれ、周辺アラブ諸国がイスラエル政府に対応を要請していたとの報道も出ていた¹⁶。特にイスラム・アラブ世界の盟主を自任するサウジアラビアにとって、トルコのこうした動きは目障りだっただろう。エジプトもパレスチナ問題へのトルコの過剰な関与を嫌ってきた。つまり、パレスチナ問題をめぐってもトルコとサウジアラビア・エジプト間で対立構造があったといえる。

しかし、今般のガザ危機の場合、トルコはイスラエルを厳しく非難しつつも問題解決に向けてアラブ諸国指導者を「出し抜こう」としている様子はない。エルドアン大統領は2023年11月にサウジアラビアの首都リヤドで急遽開催されたアラブ連盟とイスラム協力機構の合同首脳会議、そして翌月にドーハで行われた GCC 首脳会議に参加し、人道支援の拡大や恒久的停戦の実現に向けて協力することをアラブ諸国と確認した。

このように、トルコと「カルテット」4カ国の外交関係正常化は、ガザ戦争をめぐる対応にも見て取ることができるといえよう。トルコと「カルテット」の間には今でも対立の火種やしこりは残っているものの、経済的相互利益や中東情勢の安定化、そしてガザでの停戦実現を念頭に当面は協調的な関係を続けていくと思われる。

* 本稿の内容は執筆者の個人的見解であり、中東協力センターとしての見解でないことをお断りします。

16 Amir Tibon and Yaniv Kubovich, “Jordan, Saudis and Palestinians Warn Israel: Erdogan Operating in East Jerusalem Under Your Nose,” *Haaretz*, July 1, 2018.